

## 平成 20 年度防除事業の実施結果について

## 1 調査捕獲

## (1) 目的

本事業の大きな目的である全頭捕獲は、生息実態、習性に合わせた方法で進める必要があるが、その生息実態を把握するために、サルに電波発信機を装着するための捕獲を小型檻を用いて実施した。

## (2) 結果

当年度中に小型檻により新規に 10 頭捕獲し、2 頭に電波発信機を装着した。大型檻により捕獲したものの内 10 頭にも電波発信機を装着しており、当年度の新規装着个体数は 12 頭である。この他に、再捕獲できた既装着个体 10 頭について、アンテナの破損等による電波発信機の交換を行った。

なお、平成 19 年度末の装着个体数は 30 頭であり、新規装着数を加えると 42 頭となるが、発信停止等により当年度末で機能している个体数は 40 頭である。

【所属群別電波発信機装着个体の状況】(平成 20 年度末)

所 属 群	装着个体数	♂	♀
ミヤコ群	14	1	13
オタキ群	22	2	20
オタキ集団	7		7
タキミ集団	4	2	2
スズシロ集団	1		1
クワ集団	10		10
その他	4	3	1
計	40	6	34

## 2 調査

## (1) 目的

全頭捕獲に必要な当地域のアカゲザルの生息状況等を把握するために、各群の行動域、生息数、食餌植物等を調査した。

## (2) 群追跡調査

ラジオ・テレメトリー法により、平成 20 年 4 月から 21 年 3 月まで、月に 2 回（各回 2 日程度）群追跡調査を実施した。

ラジオ・テレメトリー法などでサルを発見した時に、その个体数、採食物などを記録した。

## (3) 結果

## ① 群数（図 1、2 参照）

平成 19 年度調査では、「ミヤコ群」と「オタキ群」の 2 群の存在を確定した。しかしながら、当年度の追跡調査では、この「オタキ群」に含まれる集団が別々に遊動しており、平成 19 年度に「オタキ群」とした群が、「オタキ群」「タキミ群」「スズシロ群」「クワ群」分裂したか、もしくは、元々別の群であった可能性がある。しかしながら、これらの集団の行動域は大きく重なり合っており、ニホンザルの群配置のイメージとは異なるため、引続き追跡調査を実施し、アカゲザルの生態を明らかにしていく必要がある。このため、これらの集団については、当年度は分裂したか否かについては未確認として、オタキ群の中の「集団」とした。

なお、「ミヤコ群」「オタキ群」の東側の不明集団のサルについては、当年度中に電波発信機を装着することができず、群れを確認することができなかった。

## ② 生息数

当年度中では、ミヤコ群以外の群をカウントする機会がなく、全体の生息数を把握することができなかった。

## 【ミヤコ群】

平成 20 年 4 月 25 日に 38 頭をカウントしたが、21 年 1 月～3 月にかけて 17 頭を捕獲しており、残存个体数は 20 頭前後（テレメ装着个体 14 頭）と推定さ

れる。(平成19年度以降111頭を処分)

【オタキ群】

[オタキ集団]

カウント機会なし

200~300頭程度の集団と思われるが、平成21年2月に67頭を捕獲した。

[タキミ集団]

カウント機会なし(平成19年度末に50数頭を2回カウントしている。)

[スズシロ集団]

カウント機会なし(規模が大きい印象有り。)

[クワ集団]

カウント機会なし

平成21年3月に130頭を捕獲し、残存個体数は20頭程度(テレメ装着個体10頭)と推定される。

【不明集団】

[(仮称)岩見沢集団] (図3参照)

平成18年度一斉調査において、84頭+αと推定されているが、その後カウント機会なし

[(仮称)フジオ集団] (図4参照)

フジオ(単独オス)が集団といるという観察はあるが、群の存在は不明  
カウント機会なし

③ 採食物

現地調査で確認された採食物は、以下のとおりであった。

(自然植物)

アケビの実、オニグルミの葉、カクレミノの葉・実、クズの芽、クワの実、サクラの花・葉・実、タケノコ、タブノキの実、ツバキの実、ノゲシの茎・葉・花、フジの実、マテバシイの実、ヤツデの葉柄、ヤマハゼの実等

(農作物)

ナバナの葉、カキの実、ソラマメの葉、夏ミカンの実等

3 捕獲

平成13年度に設置した大型檻1基と平成18年度以降に設置した大型檻4基により、捕獲を実施した。

大型檻にサルを誘引するための餌付けには、サツマイモ、温州ミカンを中心に、その他スイカ、落花生、カボチャなどを用いた。

大型檻による実捕獲数(再捕獲数を除く)は、237頭で、調査捕獲と併せて247頭を捕獲し、電波発信機を装着し放逐した12頭を除く235頭については、安楽殺処分を行った。

【大型檻による捕獲状況】 (平成20年度)

区分	月	平成20年度		(参考)平成19年度	
		月別	累計	月別	累計
大型檻	4月	—	0	—	0
	5月	19	19	—	0
	6月	2	21	—	0
	7月	—	21	—	0
	8月	—	21	23	23
	9月	—	21	—	0
	10月	—	21	16	39
	11月	—	21	25	64
	12月	—	21	17	81
	1月	12	33	11	92
	2月	52	85	13	105
	3月	152	237	—	105
	計			237	105
小型檻	年間		10		23
合計			247		128

#### 4. 説明会の開催等

##### (1) アカゲザル等防除（地元）説明会

開催日：平成20年10月18日（土）  
開催場所：南房総市白浜フローラルセンター  
出席者：43名  
議題：防除実施計画の概要について  
防除事業の実施状況について

##### (2) アカゲザル等防除連絡会

開催日：平成21年11月20日（水）  
開催場所：南房総県民センター安房事務所  
出席者：16名  
議題：アカゲザル等防除連絡会の設置について  
防除実施計画について

##### (3) 「アカゲザル防除通信」の発行

2101号（平成21年1月30日発行）、2102号（平成21年3月19日発行）  
発行部数各：400部 配布先：館山市及び南房総市の各区、関係団体等

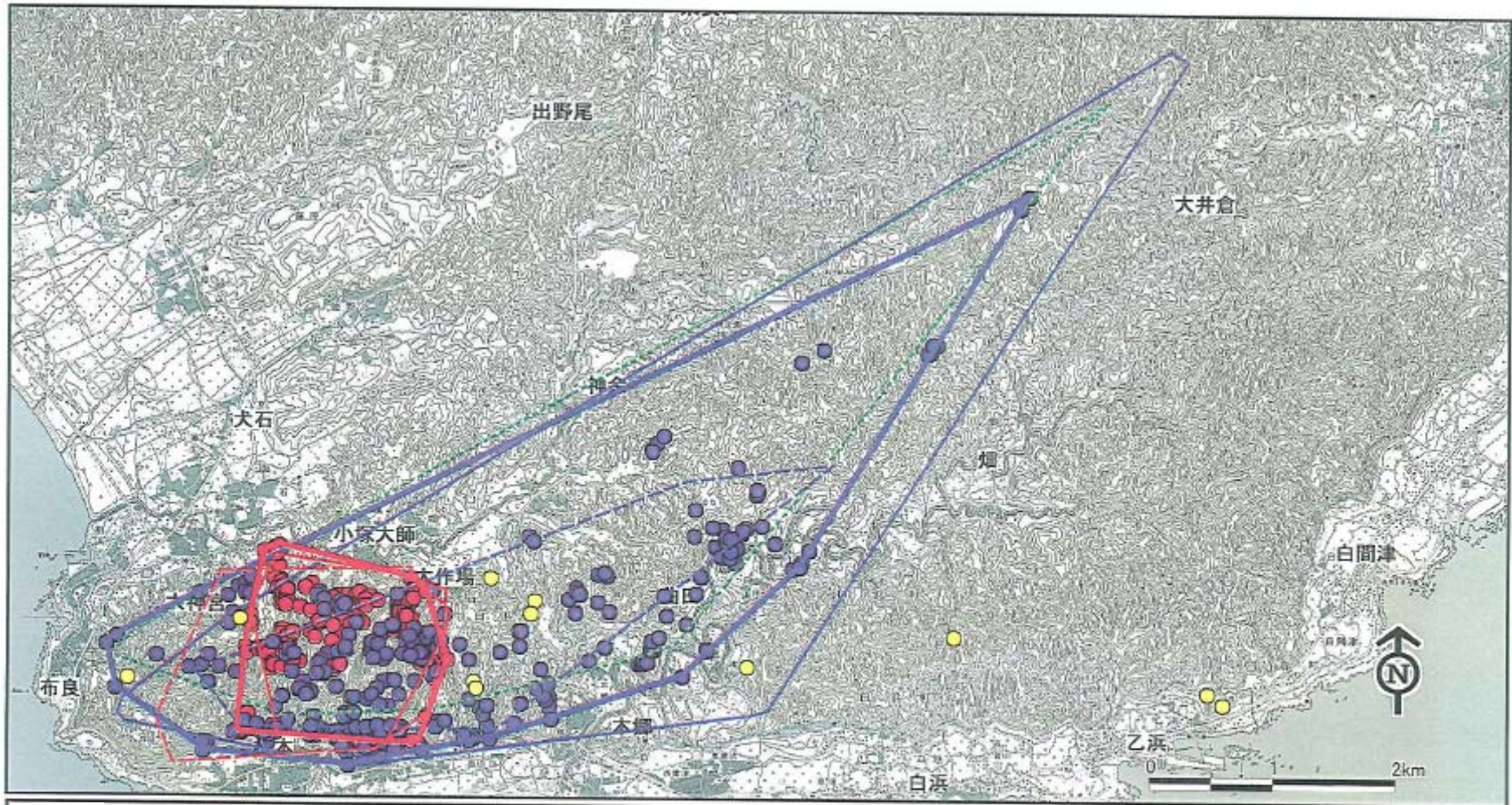


図1 「ミヤコ群」、「オタキ群08、タキミ群、スズシロ群、クワ群を合わせたオタキ群07」とした場合の確認地点と行動域  
 (2008年4月～2009年3月)

凡例：ラジオ・テレメトリー法および目視による集団別の確認地点

- |        |          |        |           |              |
|--------|----------|--------|-----------|--------------|
| ● ミヤコ群 | ● オタキ群07 | ● 不明集団 | ○ 08年度行動域 | ○ 06年度行動域    |
|        |          |        | ○ 07年度行動域 | ○ 05年度白浜群行動域 |

\*すべて100%最外郭法



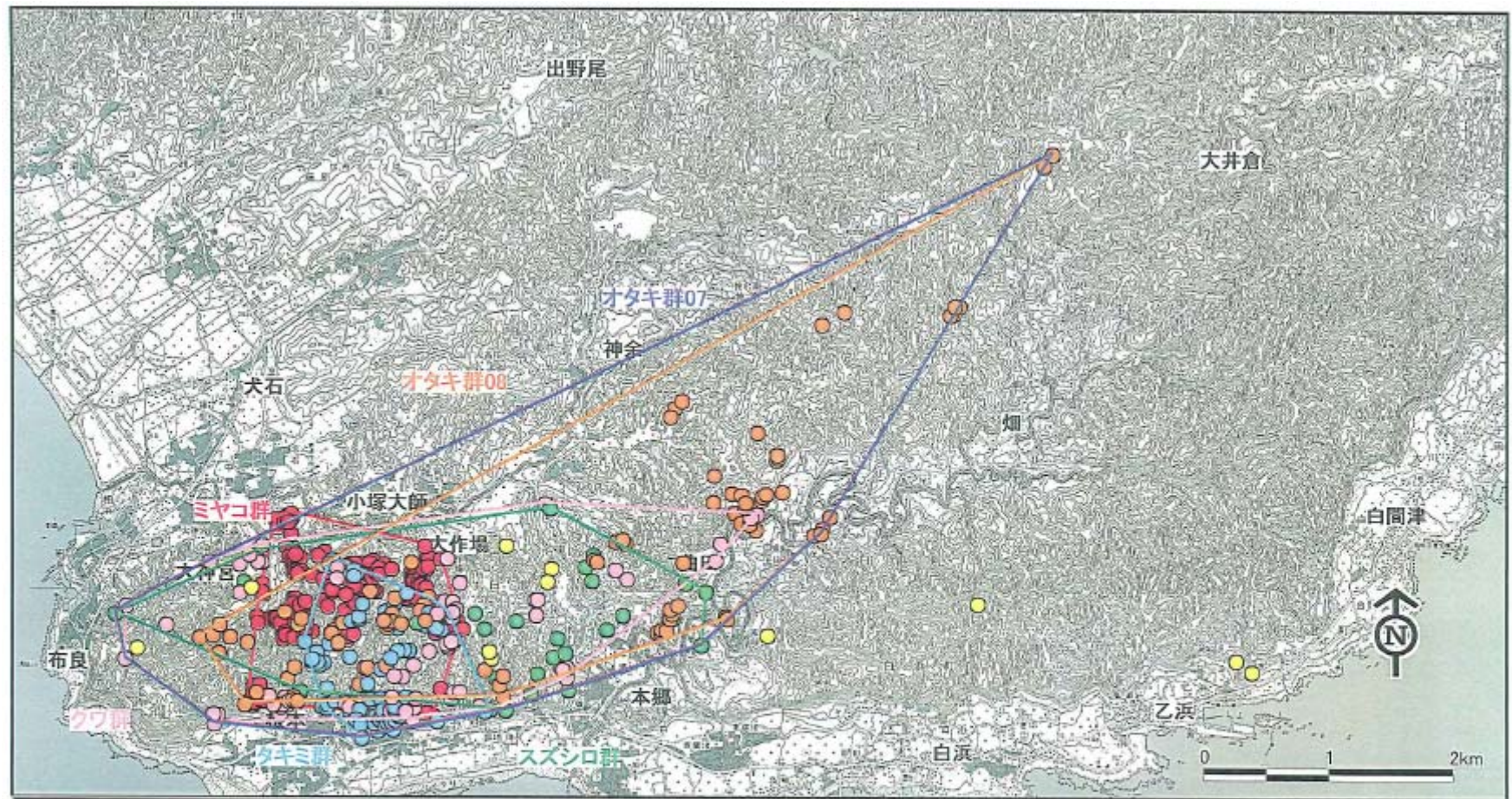


図2 確認地点と行動域(2008年4月～2009年3月)

凡例: ラジオ・テレメトリー法および目視による集団別の確認地点

- ミヤコ群
- オタキ群08
- タキミ群
- スズシロ群
- クワ群 (5月～)
- 不明集団

- 行動域 (100%最外廓法)
- オタキ群、タキミ群、スズシロ群、クワ群を合わせオタキ群07とした場合



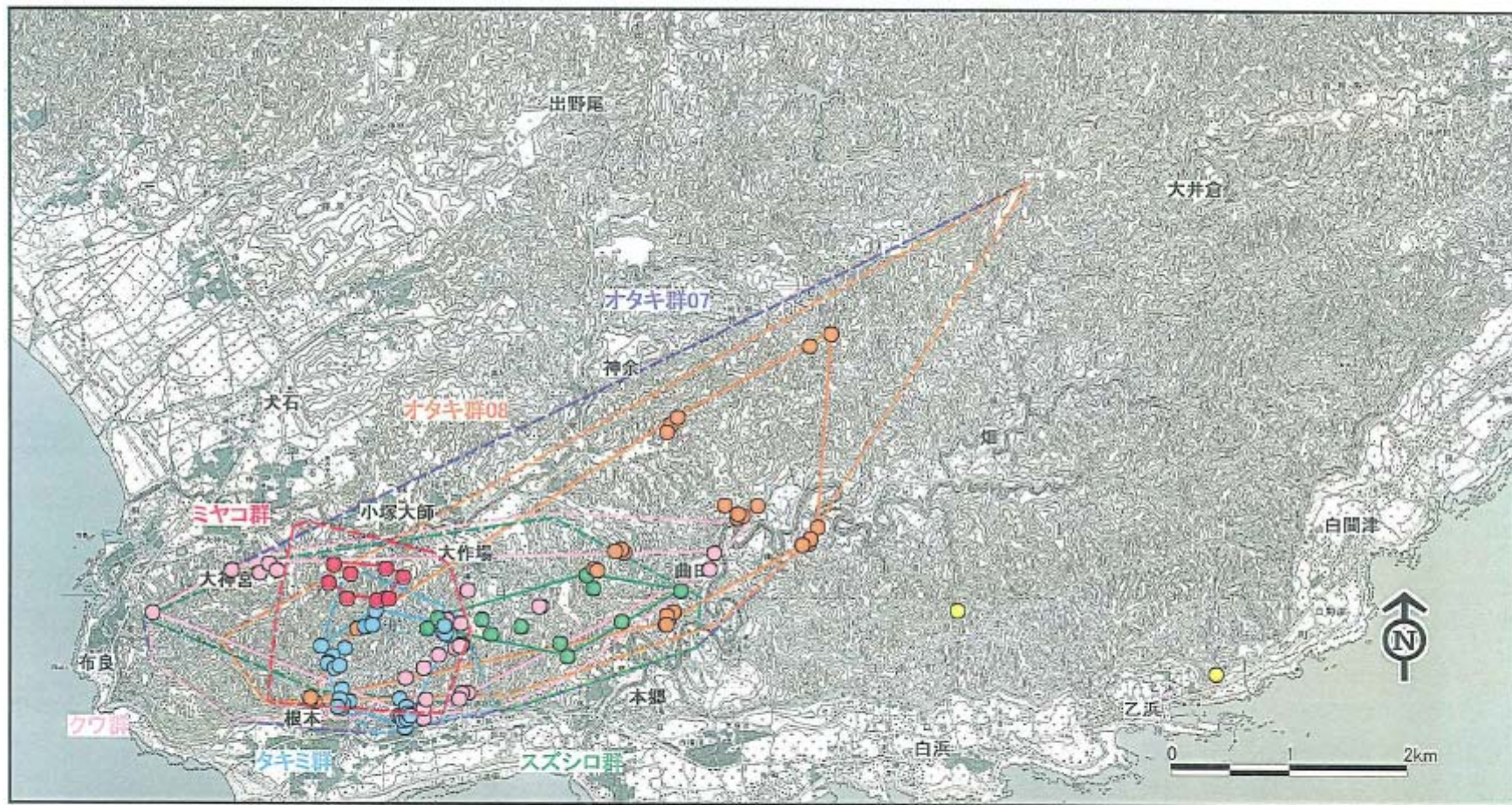


図3 電波発信機装着群の確認地点と行動域<年度後半>(2008年11月~2009年3月)

凡例: ラジオ・テレメトリー法および目視による集団別の確認地点

● ミヤコ群 ● オタキ群08 ● タキミ群 ● スズシロ群 ● クワ群 ● 不明集団

○ 2008年4月~2009年3月の行動域

○ 2008年11月~2009年3月の行動域



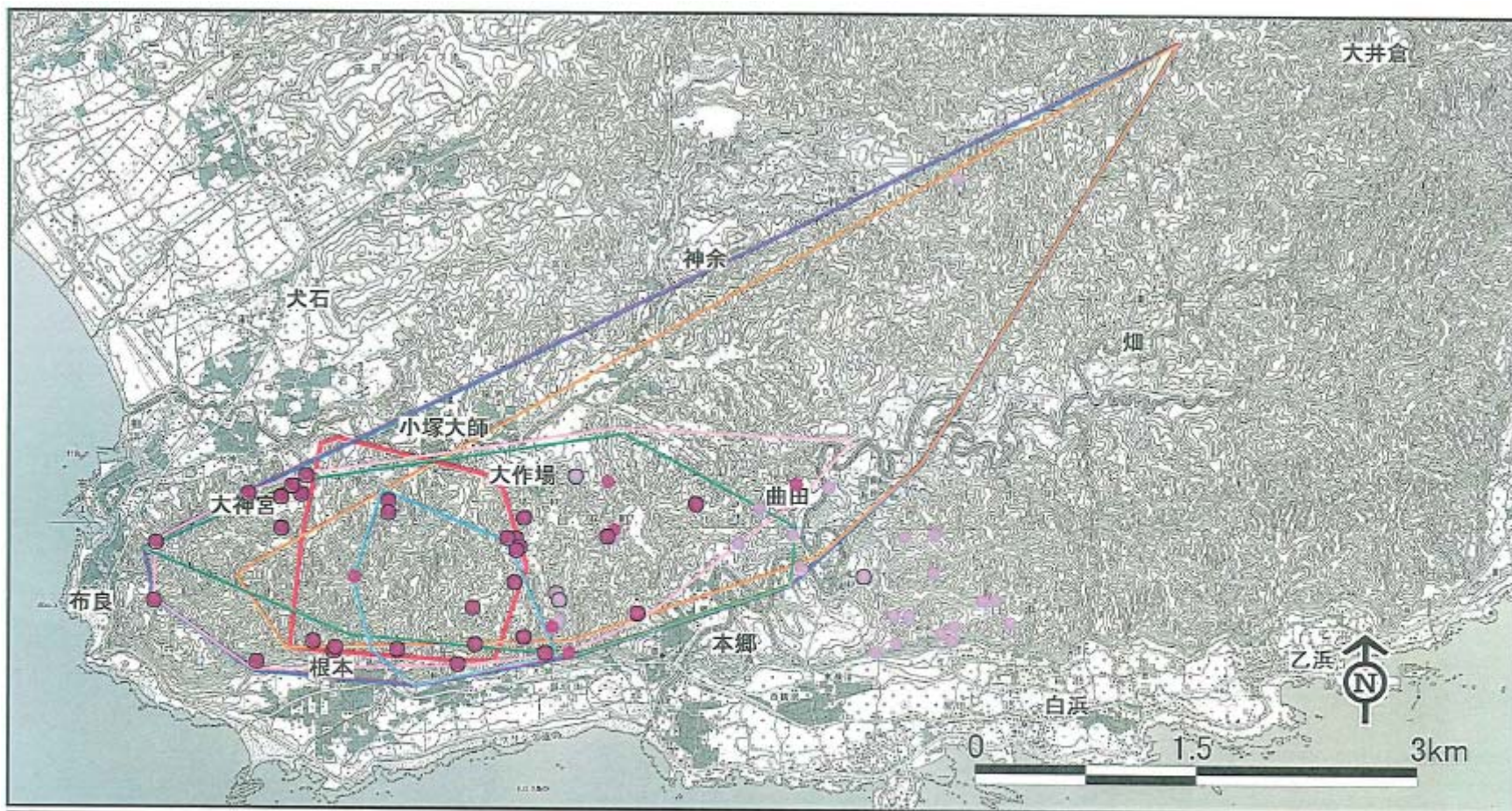


図4 テレメオスの確認地点(2008年4月～2009年3月)

凡例: ラジオ・テレメトリー法および目視による確認地点

- ヒヨドリ(A♂)、集団と確認
- ヒヨドリ(ロケーションのみの確認)
- フジオ(Y♂)、集団と確認
- フジオ(ロケーションのみ確認)

- ミヤコ群行動域
- オタキ群07とした場合の行動域

- オタキ群08の行動域
- タキミ群の行動域
- スズシロ群の行動域
- クワ群の行動域

\*すべて100%最外郭法